

開設母体

要件
国際日本研究専攻前期

専攻共通科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR001	プロジェクト演習1	2	3.0	1	通年	応談		国際日本研究専攻 全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトを指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、そのプロポーザルを発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究、主要な素材を提示するとともに、今後の原著的な研究のための研究計画を提示する。	2月予定、中間発表 教室:人文社会学系棟 A101
01DR002	プロジェクト演習2	2	3.0	2	通年	応談		国際日本研究専攻 全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。	5月及び1月予定、口頭 審問 教室:人文社会学系棟 A101
01DR003	大学院入門演習1	2	1.0	1	春AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	受講者は論文の執筆方法、文献の引用の仕方、研究者としての倫理・モラル(絶対に無断引用しないなど)等について基本的な事項を学んだ上で、自らの研究テーマをどのように選び、深めていけばよいか、そのことで学会や実社会にどのように貢献するか、講義、発表等を通じて学習していく。	論文の書き方、研究倫 理などを中心に 各学位プログラムリー ダーによる授業 第三水曜、18:00~ 20:00 4月15日 4月22日 5月20日(中間発表) 6月17日(成果発表) 教室:人文社会学系棟 A101
01DR004	大学院入門演習2	2	1.0	1	秋AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	受講者は論文の執筆方法、文献の引用の仕方、研究者としての倫理・モラル(絶対に無断引用しないなど)等について基本的な事項を学んだ上で、自らの研究テーマをどのように選び、深めていけばよいか、そのことで学会や実社会にどのように貢献するか、講義、発表等を通じて学習していく。	事前に申請・許可が必要 社会人、早期終了希望 者を対象 9月15日 9月12日 10月3日(中間発表) 10月10日(成果発表)

専門基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR032	国際日本研究のための 日本語	1	1.0	1	秋AB	月1		李 仁哲	日本語を通じて研究方法・資料収集、文献の読み方など論文執筆に必要な知識についての議論、講義を行う。	(日本語、英語、中国 いずれか1科目を選択 必修)教室:共同研究棟 A601-1
01DR033	国際日本研究のための 英語	1	1.0	1	秋AB	木1		李 仁哲	This course will discuss and explain the necessary knowledge such as methodology, literary review for writing master's thesis.	(日本語、英語、中国 いずれか1科目を選択 必修)英語で授業。教 室:共同研究棟A601-1
01DR034	国際日本研究のための 中国語	1	1.0	1	秋AB	金1		李 仁哲	以中文討論説明研究方法、資料収集、文献探討等 撰寫論文所需的知識。	(日本語、英語、中国 いずれか1科目を選択 必修)中国語で授業。 教室:共同研究棟A601- 1
01DR035	フェロー・リサーチ1	1	1.0	1・2	秋AB	応談		保坂 俊司 笹尾 敏明	国内外の幅広い領域・業種において活躍している 研究者や実務者から研究や現実社会の動きなど について最先端の情報を学ぶ。それによって受講生 の研究テーマをどう深め、理論と実務をどのよう に融合していくべきかなどについて講義や討議を 通じて自分の力で考えられるようにしていく。	02DMB01と同一。 11月30日(月)、12月 1日(火)

ディシプリン共通科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR061	リサーチ・プログラム開発1	2	2.0	1	春AB	水6		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日
01DR062	リサーチ・プログラム開発2	2	2.0	1	春AB	金6		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR063	リサーチ・プログラム開発3	2	2.0	1	秋AB	水6		国際日本研究専攻 全教員	<p>自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。</p>	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日
01DR064	リサーチ・プログラム開発4	2	2.0	1	秋AB	金6		国際日本研究専攻 全教員	<p>自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。</p>	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR065	リサーチ・プログラム開発5	2	2.0	2	春AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日
01DR066	リサーチ・プログラム開発6	2	2.0	2	春AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR067	リサーチ・プログラム開発7	2	2.0	2	秋AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日
01DR068	リサーチ・プログラム開発8	2	2.0	2	秋AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要 申請締切：2015年4月9日

複合科目基礎

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR091	リサーチ・プログラム開発複合1	2	2.0	1	春AB	応談			複合学位プログラムに関する研究テーマを選んだ学生のみが履修できる。指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がいる)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がいる。	複合領域教員 事前に申請・許可が必要 申請締切:2015年4月9日
01DR092	リサーチ・プログラム開発複合2	2	2.0	1	秋AB	応談			複合学位プログラムに関する研究テーマを選んだ学生のみが履修できる。指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がいる)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がいる。	複合領域教員 事前に申請・許可が必要 申請締切:2015年4月9日

国際日本文科学学位プログラム

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR541	比較東洋思想1A	1	1.0	1・2	春AB	木4		佐藤 貢悦	「家」、「家族」など基本的な概念について検討し、さらに中国を主たる対象とする家庭教育の課題について考察する。	教室:人社A424 西暦奇数年度開講。 01D0782、01DR302と同一。
01DR542	比較東洋思想1B	2	1.0	1・2	秋AB	水6		佐藤 貢悦	日中韓の比較文化論に関する諸問題について考察する。	教室:人社A424 西暦奇数年度開講。 01D0784と同一。
01DR543	比較東洋思想2A	1	1.0	1・2					日中韓の比較文化論に関する諸問題について考察する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR544	比較東洋思想2B	1	1.0	1・2					アジアと日本および欧米の比較文化論を用い、その特有の心理・身体形成について考察する。	01DR342と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR545	日本社会と宗教1A	1	1.0	1・2	春AB	火3		津城 寛文	社会の中の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を、検討対象とする。日本人論の中の、国民性、倫理観、美意識、神聖観(感)などがおもな話題となる。その背景にある、歴史的、地理的な要因について、歴史学、人類学、民俗学、神話学、言語学などの知見を活用する。	教室:文修8A409 西暦奇数年度開講。 01D0636と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR546	日本社会と宗教1B	2	1.0	1・2	秋AB	火3		津城 寛文	社会の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集会的な原思想、原宗教を対象とする。民俗学、人文地理学、文学研究、芸術研究、異文化研究の一部が探求してきた、「懐かしさ」という感情に焦点を絞り、原風景、原体験などがおもな話題となる。	教室:文修8A409 西暦奇数年年度開講。 01D0637と同一。
01DR547	日本社会と宗教2A	1	1.0	1・2					社会の中の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集会的な原思想、原宗教を対象とする。日本人論の中の、国民性、倫理観、美意識、神聖観(感)などがおもな話題となる。その背後にある、歴史的、地理的な要因について、歴史学、人類学、民俗学、神話学、言語学などの知見を活用する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年年度開講
01DR548	日本社会と宗教2B	2	1.0	1・2					社会の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集会的な原思想、原宗教を対象とする。民俗学、人文地理学、文学研究、芸術研究、異文化研究の一部が探求してきた、「懐かしさ」という感情に焦点を絞り、原風景、原体験などがおもな話題となる。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年年度開講
01DR549	朝鮮半島の思想と文化1A	1	1.0	1	春C	集中		嚴 錫仁	朝鮮半島についての研究文献を講読し、その思想と文化について議論する。	西暦奇数年年度開講。 7/9-7/10
01DR550	朝鮮半島の思想と文化1B	2	1.0	1					朝鮮半島についての研究文献を講読し、その思想と文化について議論する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年年度開講
01DR551	日本文化と経済思想1A	1	1.5	1・2	春ABC	月4		平山 朝治	霊長類の家族進化の延長上に人間の経済的交換や貨幣をとらえたうえで、日本貨幣の源流が中国の銅銭ではなく西方起源の銀貨であり、7世紀後半にキリスト教とともに東南アジアからもたらされたことを見る。	教室:共同利用棟A202 西暦奇数年年度開講。 01DR303と同一。
01DR552	日本文化と経済思想1B	2	1.5	1・2	秋ABC	月4		平山 朝治	「日本らしさ」の形成を地層の形成になぞらえつつ説明する。	教室:共同利用棟A202 西暦奇数年年度開講。 01DR304と同一。
01DR553	日本文化と経済思想2A	1	1.5	1・2					日本文化の個性と普遍性を明らかにすることを目標に、言語ゲーム論や解釈学を手がかりに、文化相対主義や文明の対立を超える普遍的価値を探る。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年年度開講
01DR554	日本文化と経済思想2B	2	1.5	1・2					日本文化の個性と普遍性を明らかにすることを目標に、合理的経済人仮説を批判し、言語ゲーム論などによって社会経済をとらえる。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年年度開講
01DR581	比較文学論1A	1	1.0	1・2	春AB	木4	8A404-2	平石 典子	翻訳理論を学びながら、日本文学の翻訳について考察する。	教室:文修8A409 西暦奇数年年度開講。 01D0642, 01DR427と同一。
01DR582	比較文学論1B	2	1.0	1・2	秋AB	木4	8A404-2	平石 典子	比較文学の手法を用いて、日本文学について考察する。	教室:文修8A409 西暦奇数年年度開講。 01D0652と同一。
01DR584	比較文学論2B	2	1.0	1・2					比較文学の手法を用いて、日本文学について考察する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年年度開講
01DR585	比較文学論3A	1	1.0	1・2	春AB	火4		平石 典子	This course is designed to be a survey of modern Japanese fiction and culture. It aims: ・ to introduce you to a variety of Japanese fiction, written from the beginning of the Meiji period to the end of World War II (1868-1945). ・ to help you improve your skills in reading and analyzing Japanese literary texts. ・ to help you understand the concerns and perspectives of the authors and the major ideas that have helped to shape modern Japanese culture and society.	教室:共同研究棟A601-2 西暦奇数年年度開講。 01D0645と同一。
01DR586	比較文学論3B	2	1.0	1・2	秋AB	火4		平石 典子	This course is designed to be a survey of modern Japanese fiction and culture. It aims: ・ to introduce you to a variety of Japanese fiction, written after the end of World War II (1945-present). ・ to help you improve your skills in reading and analyzing Japanese literary texts. ・ to help you understand the concerns and perspectives of the authors and the major ideas that have helped to shape modern Japanese culture and society.	教室:共同研究棟A601-2 西暦奇数年年度開講。 01D0655と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR587	比較文学論4A	1	1.0	1・2					This course is designed to be a survey of modern Japanese fiction and culture. It aims: ・ to introduce you to a variety of Japanese fiction, written from the beginning of the Meiji period to the end of World War II (1868-1945). ・ to help you improve your skills in reading and analyzing Japanese literary texts. ・ to help you understand the concerns and perspectives of the authors and the major ideas that have helped to shape modern Japanese culture and society.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR588	比較文学論4B	2	1.0	1・2					This course is designed to be a survey of modern Japanese fiction and culture. It aims: ・ to introduce you to a variety of Japanese fiction, written after the end of World War II (1945-present). ・ to help you improve your skills in reading and analyzing Japanese literary texts. ・ to help you understand the concerns and perspectives of the authors and the major ideas that have helped to shape modern Japanese culture and society.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR589	日本文学研究1A	1	1.5	1・2	春A 春BC	月4	1B304, 1C402 1C402	清登 典子	近世俳諧における季語のうち、秋の季語を取り上げ、和歌に於ける用い方と比較して検討を加える。受講者の発表と討議によって授業を進める。	2015年度より4年おき開講。 02DS389と同一。
01DR590	日本文学研究1B	1	1.5	1・2	秋ABC	月4	1B410	清登 典子	近世俳諧における季語のうち、秋の季語を取り上げ、近世初期俳諧、芭蕉俳諧、蕪村俳諧における用例を比較して検討を加える。受講生の発表と討議によって授業を進める。	2015年度より4年おき開講。 02DS390と同一。
01DR593	日本文化研究1A	1	1.0	1・2	春AB	木2		石塚 修	日本文学の古典作品を通じて、日本の年中行事について理解する。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。
01DR594	日本文化研究1B	2	1.0	1・2	秋AB	木2		石塚 修	日本文化研究1Aと関連させて、日本文学の古典作品を通じて、日本の年中行事についての知識と理解をふかめる。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。
01DR595	日本文化研究2A	1	1.0	1・2					日本文化について茶の湯文化を中心に知識と理解を深める	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR596	日本文化研究2B	2	1.0	1・2					日本の生活風習を日本文学との関連で理解を深めていく。受講生の興味・関心に基づいたテーマをとりあげ演習形式ですすめる。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR597	比較文化論1A	1	1.5	1・2	春ABC	水3	人社 B616	清水 知子	現代社会における格差と文化について考える。トマ・ピケティ『21世紀の資本』及びナオミ・クライン『ブランドなんかいらない』をはじめとするテキストを中心に議論する。	西暦奇数年度開講。 01DE307, 02DH307と同一。
01DR598	比較文化論1B	2	1.5	1・2	秋ABC	水3		清水 知子	ソーシャル・ドキュメンタリーにおける映像表現の基礎を理解し、ドキュメンタリーから現代社会の諸問題と語りの問題について考える。	西暦奇数年度開講。 01DE308, 02DH308と同一。
01DR599	比較文化論2A	1	1.5	1・2	春ABC	火3	1B201	宮本 陽一郎	アメリカ文学におけるポストモダニズム 第2次世界大戦以降の合衆国文学を、美術、建築、写真、映画、思想などとの相互的な関係に注目しつつ論じる。	2015年度より4年おき開講。 02DS609と同一。
01DR600	比較文化論2B	1	1.5	1・2	秋ABC	火3	1B201	宮本 陽一郎	財と表象 アメリカ合衆国の文学と文化を、「資本主義の精神」の形成と脱構築のプロセスとして論じる。	2015年度より4年おき開講。 02DS610と同一。
01DR601	ポピュラー文化論A	1	1.5	1・2	春A 春BC	火2	人社 A515	吉原 ゆかり	さまざまな文化テキストの、脱領域的交流と相互交渉について研究する。	2015年度より4年おき開講。 02DS159と同一。
01DR602	ポピュラー文化論B	1	1.5	1・2	秋ABC	火2		吉原 ゆかり	英語もしくは日本語で書かれたさまざまな文化テキストが、人やものの移動に伴って地域や文化圏域を越えて交流し変容するさまを研究する。	2015年度より4年おき開講。 02DS160と同一。
01DR631	比較映画1A	1	1.5	1・2	春ABC	水2		今泉 容子	映画は文化や社会をストレートに描き出す。東西の文化圏の映画を比較考察し、そうしたグローバルな視点に立つて、受講生各人が研究対象とする国・民族の独自性を解明する。映画を分析するスキルも習得する。	教室:2C107

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR632	比較映画1B	2	1.5	1・2	秋ABC	水2		今泉 容子	映画は文化や社会をストレートに描き出す。東西の文化圏の映画を比較考察し、そうしたグローバルな視点に立って、受講生各人が研究対象とする国・民族の独自性を解明する。映画を分析するスキルも習得する。	
01DR633	比較映画研究1A	1	1.5	1・2	春ABC	火3		今泉 容子	映画における「文化」「社会」「市民(男・女)」の表象を分析する。そのさい、映画の原作(文学)を視野に入れると同時に、映画の「読みかた」も学ぶ。	01DQ046と同一。
01DR634	比較映画研究1B	2	1.5	1・2	秋ABC	火3		今泉 容子	映画における「文化」「社会」「市民(男・女)」の表象を分析する。そのさい、映画の原作(文学)を視野に入れると同時に、映画の「読みかた」も学ぶ。	01DQ048と同一。
01DR635	比較映画2A	1	1.5	1・2	春ABC	火2		今泉 容子	映画は文化や社会をストレートに描き出す。東西の文化圏の映画を比較考察し、そうしたグローバルな視点に立って、受講生各人が研究対象とする国・民族の独自性を解明する。映画を分析するスキルも習得する。	西暦奇数年度開講。 01DQ006と同一。
01DR636	比較映画2B	2	1.5	1・2	秋ABC	火2		今泉 容子	映画は文化や社会をストレートに描き出す。東西の文化圏の映画を比較考察し、そうしたグローバルな視点に立って、受講生各人が研究対象とする国・民族の独自性を解明する。映画を分析するスキルも習得する。	01DQ008と同一。
01DR637	比較映画研究2A	3	1.5	1・2	春ABC	火5		今泉 容子	映画における「文化」「社会」「市民(男・女)」の表象を分析する。そのさい、映画の原作(文学)を視野に入れると同時に、映画の「読みかた」も学ぶ。	01DQ016と同一。
01DR638	比較映画研究2B	2	1.5	1・2	秋ABC	火5		今泉 容子	映画における「文化」「社会」「市民(男・女)」の表象を分析する。そのさい、映画の原作(文学)を視野に入れると同時に、映画の「読みかた」も学ぶ。	01DQ018と同一。
01DR639	広告と消費文化A	1	1.0	1	夏季休業中	集中		大場 吾郎	消費社会における広告の効果について、その記号的意味を考察する。	9/14-9/16
01DR640	広告と消費文化B	1	1.0	2	秋B	集中		白戸 健一郎	消費社会における広告の効果について、その記号的意味を考察する。	教室:総合研究棟A107 11/21-11/22
01DR641	メディア文化研究A	1	1.0	1・2	春AB	水3		仲田 誠	戦前戦後の小津安二郎(晩春)の映画や戦中の日本映画(田坂具隆の『5人の斥候兵』など)、稲垣浩、黒澤明などの映画を見ながら、日本人の価値観について考える。日本的悲しみの思想や運命感・無常観などと日本の社会のありかたについて考える。映像の中にこのような価値観、世界観がどのように反映されているか考える。こうした価値観や身体感覚・身体図式が日本の社会・技術・科学のありかたにどう関わってきたかについても考える。2015年度開講予定。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DQ706、01DR385と同一。
01DR642	メディア文化研究B	2	1.0	1・2					マスメディア研究、情報社会研究について学ぶ。2016年度開講予定。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR643	情報社会研究A	1	1.0	1・2	秋AB	水3		仲田 誠	人工知能、還元論的情報社会論の問題点について考える。あわせて日本の科学・技術・社会・経済の「閉塞感」について考え、この「閉塞感」を乗り越え、創発・イノベーションを可能にするにはどうしたらよいか考える。日本文化がもっていた「奥行き」をめぐる議論、存在論的・解釈学的情報社会論が提起した世界の多元性の問題などを参照する。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DQ773、01DR346と同一。
01DR644	情報社会研究B	1	1.0	1・2					「情報社会・ロボット・身体1」に引き続き、人工知能、還元論的情報社会論の問題点について考える。あわせて日本の科学・技術・社会・経済の「閉塞感」について考え、この「閉塞感」を乗り越え、創発・イノベーションを可能にするにはどうしたらよいか考える。日本文化がもっていた「奥行き」をめぐる議論、存在論的・解釈学的情報社会論が提起した世界の多元性の問題などを参照する。ロボットについてもとりあげ、「技術と文化・人々の価値観・身体図式との関連」という視点から問題にする予定。情報倫理、ロボット倫理の問題も取り上げる。技術と人間の関わり方の問題について、技術・科学、思想、文化、人間観、倫理等という総合的視点から考える。	01DR392と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR645	メディア調査研究1	1	2.0	1	春AB	火5,6		石井 健一	社会心理学やコミュニケーション研究の視点から消費者行動に関する研究を紹介する。授業に関連した実習も行う。	01CB126、01CD221、01CN323、01DR386と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR646	国際ジャーナリズム論1A	1	1.0	1	春AB	火6		福原 直樹	全国紙で事件記者と海外特派員(ジュネーブ、ブリュッセル、パリ)をそれぞれ15年間務めた教員の経験をもとに、まずは現場から見た日本の報道一般/国際報道の基本的な問題点を考えていきたい。そのうえで、海外(主に欧米)メディアによる国際報道にも視野を広げ、欧米著名ジャーナリストによる労作も読み解く。	教室:共同研究棟A601-2
01DR647	国際ジャーナリズム論1B	2	1.0	1	秋AB	集中		福原 直樹	全国紙で事件記者と海外特派員(ジュネーブ、ブリュッセル、パリ)をそれぞれ15年間務めた教員の経験をもとに、まずは現場から見た日本の報道一般/国際報道の基本的な問題点を考えていきたい。そのうえで、海外(主に欧米)メディアによる国際報道にも視野を広げ、欧米著名ジャーナリストによる労作も読み解く。	
01DR648	メディア社会研究1A	1	1.0	1・2	春AB	火4		海後 宗男	この授業では、社会的ネットワーク論の基礎を勉強します。人と人とのつながりの関係性、紐帯、小集団組織度、コミュニティの中で意見の集約について学習します。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DQ795, 01DR388と同一。
01DR649	メディア社会研究1B	1	1.0	1・2	春AB	火5		海後 宗男	社会関係資本の形成過程とインターネットの利用の関連性、利用者、コミュニティ、社会への効果を学習する。情報通信、コミュニティ、地域振興、地方自治という視点から考える。	教室:共同研究棟A601-2 西暦奇数年度開講。 01DQ796, 01DR390と同一。
01DR650	ニューメディア論A	2	1.0	1					デジタル・メディアに関する新しい動向を紹介しながら、コミュニケーションの変遷について学び、次世代のメディア・コミュニケーションの流れを考察する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR651	ニューメディア論B	2	1.0	1					デジタル・メディアに関する新しい動向を紹介しながら、コミュニケーションの変遷について学び、次世代のメディア・コミュニケーションの流れを考察する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR652	メディア思想と日本社会1A	1	1.0	1・2	春AB	木5		白戸 健一郎	国家のブランド力たる真のソフト・パワーとは?本講義では昨今のクールジャパン論をはじめとする文化発信政策について検証します。	教室:共同研究棟A601-2 西暦奇数年度開講。 01DR383と同一。
01DR653	メディア思想と日本社会1B	2	1.0	1・2	春AB	月5		白戸 健一郎	複数の事例から、広告の効果と一般的宣伝論について学ぶ。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。
01DR654	比較メディア思想A	1	1.0	1・2					特定メディアを取り上げ、その性質と影響プロセスについて考察する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR655	比較メディア思想B	1	1.0	1・2					複数の事例から、広告の効果と一般的宣伝論について学ぶ。	01DR384と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講

国際日本社会科学学位プログラム

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR101	グローバル日本政治(市民社会)1A	1	1.0	1・2	春AB	金4		辻中 豊	日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。日本政治・社会の基本文献を検討するとともに、実証的な研究方法について研究する。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DP656, 01DR462と同一。
01DR102	グローバル日本政治(市民社会)1B	2	1.0	1・2	秋AB	金4		辻中 豊	日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。日本政治・社会の基本文献を検討するとともに、実証的な研究方法について研究する。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DF249, 01DQ716, 01DR463と同一。
01DR103	グローバル日本政治(市民社会)2A	1	1.0	1・2					日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。特に日本と東アジアのNPO/NGOにスポットを当てた事例研究である。	教室:共同研究棟A601-2 01DR308と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR104	グローバル日本政治(市民社会)2B	2	1.0	1・2					日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。特に日本と東アジアのNPO/NGOにスポットを当てた事例研究である。	01DR309と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR105	グローバル日本政治(国際政治)1	1	1.0	1・2	秋BC	火5		波多野 澄雄	第二次大戦後の日本の対外政策の展開を、東アジアの国際関係の変動との関連で講義を行う。適宜、重要なトピックスについて教材を配布する。	教室:プロジェクト研究棟2階波多野研究室 01DQ741, 01DR314と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR106	グローバル日本政治(対外関係)1A	1	1.0	1・2	春AB	火5	3K219	潘 亮	This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	教室:3K219 西暦奇数年度開講。 01DF596, 01DQ743, 01DR315, 01DR472と同一。
01DR107	グローバル日本政治(対外関係)1B	1	1.0	1・2	春AB	火6	3K219	潘 亮	This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	教室:3K219 西暦奇数年度開講。 01DF597, 01DQ744, 01DR316, 01DR473と同一。
01DR108	グローバル日本政治(対外関係)2A	2	1.0	1・2					This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR109	グローバル日本政治(対外関係)2B	2	1.0	1・2					This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR110	グローバルガバナンス(国際関係論)1A	1	1.0	1・2	春AB	火2	総合A107	大友 貴史	The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	教室:総合研究棟A107 西暦奇数年度開講。 01DP461と同一。
01DR111	グローバルガバナンス(国際関係論)1B	2	1.0	1・2	秋AB	月5	総合A107	大友 貴史	The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	教室:総合研究棟A107 西暦奇数年度開講。 01DP462, 01DZ529と同一。
01DR112	グローバルガバナンス(国際関係論)2A	1	1.0	1・2					The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR113	グローバルガバナンス(国際関係論)2B	2	1.0	1・2					The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR114	グローバルガバナンス(政治とディスコース)1A	1	1.0	1	春C	集中		木島 譲次	国際社会における言語や言説の影響と政治との関係性について考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR307と同一。 7/8-7/9
01DR115	グローバルガバナンス(政治とディスコース)1B	1	1.0	1	秋C	集中		木島 譲次	国際社会における言語や言説の影響と政治との関係性について考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR484と同一。
01DR118	グローバル社会と情報2A	1	1.0	1・2					The main goal of this course is to provide students with the opportunity to conduct in-depth analyses of key topics in the information society debate from the perspective of international politics. What is the relationship between international politics and the information society? What role do various international organizations play in the global information society? Our class will delve into selected topics including, but not limited to, communications and technological dynamics in international politics, digital divide/privacy theories, private companies and data/privacy security, and social network utilization.	01DR488と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR119	グローバル社会と情報2B	2	1.0	1・2					(Not Offered in the 2015-16 academic year; offered in the 2016-17 academic year.)	01DR489と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR120	日本社会と計量分析1A	1	1.0	1・2	春AB	月2		崔 宰栄	計量分析は、溢れる情報からの物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの1つである。この授業では、分析データの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計や使い方について講義する。計量分析の概要、基礎集計(度数分布)、記述統計(代表値、散布度)など統計の基本を理解し、日本社会と計量分析1Bを勉強するための土台作りを行う。	教室:8A211 01DF292, 01DP557と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR121	日本社会と計量分析1B	1	1.0	1・2	春AB	木2		崔 宰栄	計量分析は、溢れる情報からの物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの1つである。この授業では、分析データの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計や使い方について講義する。そのため、日本社会と計量分析1Aで学んだ知識(基礎集計、記述統計)を土台とし、関連分析(相関分析、回帰分析)を中心とした、計量分析の入門的な概念を理解し、発展させる。	教室:8A211 01DF293、01DP567と同一。
01DR122	日本社会と計量分析演習1A	2	1.0	1・2	春AB	月3		崔 宰栄	統計分析用ソフトSPSSを使用して、計量分析に要する一連の分析プロセスを学ぶ。本授業では、SPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を学び、日本社会と計量分析演習1Bでの高度な分析を行うための土台作りを行う。	教室:8A211
01DR123	日本社会と計量分析演習1B	2	1.0	1・2	春AB	木3		崔 宰栄	統計分析用ソフトを使用して、計量分析に要する一連の分析プロセスを学ぶ。本授業では、日本社会と計量分析演習1Aで学んだSPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を土台とし、高度な分析を行う。	教室:8A211
01DR124	グローバル政治と日本社会(国際人口移動論)1A	1	1.0	1・2	春AB	月4		明石 純一	現代の移民・難民問題、および国際人口移動に関する理論、政策、ガバナンスについて考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	教室:文科系修士棟 8A101 西暦奇数年度開講。 01DQ749と同一。
01DR125	グローバル政治と日本社会(国際人口移動論)1B	1	1.0	1・2	春AB	月5		明石 純一	現代の移民・難民問題、および国際人口移動に関する理論、政策、ガバナンスについて考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	教室:文科系修士棟 8A101 西暦奇数年度開講。 01DQ750と同一。
01DR126	グローバル政治と日本社会(国際人口移動論)2A	1	1.0	1・2					現代の移民・難民問題、および国際人口移動に関する理論、政策、ガバナンスについて考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR127	グローバル政治と日本社会(国際人口移動論)2B	1	1.0	1・2					現代の移民・難民問題、および国際人口移動に関する理論、政策、ガバナンスについて考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR128	日本社会と公共経済1A	1	1.0	1・2	春AB	木3		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR129	日本社会と公共経済1B	2	1.0	1・2	秋AB	木3		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR130	日本社会と公共経済2A	1	1.0	1・2	春AB	火6		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR131	日本社会と公共経済2B	2	1.0	1・2	秋AB	火6		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR132	日本社会と公共経済3A	1	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR133	日本社会と公共経済3B	2	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR134	日本社会と公共経済4A	1	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR135	日本社会と公共経済4B	2	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR136	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)1A	1	1.0	1・2	春AB	月3		福住 多一	ゲーム理論と社会科学への応用例を学ぶ。特に日本社会におけるケースを講義する。	教室:人社A303 西暦奇数年度開講。
01DR137	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)1B	2	1.0	1・2	春C	応談		福住 多一	日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	教室:人社A303 西暦奇数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR138	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)2A	1	1.0	1・2					ゲーム理論と社会科学への応用例を学ぶ。特に日本社会におけるケースを講義する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR139	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)2B	2	1.0	1・2					日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR140	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)3A	1	1.0	1・2	秋AB	月3		福住 多一	ゲーム理論と社会科学への応用例を学ぶ。特に日本社会におけるケースを講義する。	教室:人社A303 西暦奇数年度開講。
01DR141	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)3B	2	1.0	1・2	秋C	応談		福住 多一	日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	教室:人社A303 西暦奇数年度開講。
01DR142	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)4A	1	1.0	1・2					ゲーム理論と社会科学への応用例を学ぶ。特に日本社会におけるケースを講義する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR143	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)4B	2	1.0	1・2					日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR201	グローバル経済論(世界経済史)1A	1	1.0	1・2	春AB	水3		田中 洋子	グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について学ぶ。	教室:図書館セミナー室 西暦奇数年度開講。 01D0265と同一。
01DR202	グローバル経済論(世界経済史)1B	2	1.0	1・2	春C	応談		田中 洋子	各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	西暦奇数年度開講。 01D0266と同一。
01DR203	グローバル経済論(世界経済史)2A	1	1.0	1・2					グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について学ぶ。	教室:図書館セミナー室 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR204	グローバル経済論(世界経済史)2B	2	1.0	1・2					各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR205	グローバル経済と日本(金融と日本社会)1A	1	1.0	1・2	春AB	木2		高橋 秀直	金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	教室:1C306 西暦奇数年度開講。
01DR206	グローバル経済と日本(金融と日本社会)1B	2	1.0	1・2	秋AB	火3		高橋 秀直	金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR207	グローバル経済と日本(金融と日本社会)2A	1	1.0	1・2	春AB	木3		高橋 秀直	金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	教室:1C403 西暦奇数年度開講。
01DR208	グローバル経済と日本(金融と日本社会)2B	2	1.0	1・2	秋AB	木2		高橋 秀直	金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR209	グローバル経済と日本(金融と日本社会)3A	1	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR210	グローバル経済と日本(金融と日本社会)3B	2	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR211	グローバル経済と日本(金融と日本社会)4A	1	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR212	グローバル経済と日本(金融と日本社会)4B	2	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR213	グローバル経済と日本(企業経営史)1A	1	1.0	1・2	春AB	木5	1B204	平沢 照雄	日本企業における企業家活動、事業展開および企業成長の歴史について多角的に検討する。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR214	グローバル経済と日本(企業経営史)1B	2	1.0	1・2	秋AB	木5		平沢 照雄	日本企業の事業展開と組織革新の歴史について多角的に検討する。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR215	グローバル経済と日本(企業経営史)2A	1	1.0	1・2					日本企業における企業家活動、事業展開および企業成長の歴史について多角的に検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR216	グローバル経済と日本(企業経営史)2B	2	1.0	1・2					日本企業の事業展開と組織革新の歴史について多角的に検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR217	グローバル経済と日本(地域経済史)1A	1	1.0	1・2	春AB	木6	1B204	平沢 照雄	グローバル競争下における地域経済を考察する歴史的前提として地域経済発展の構造と歴史について検討する。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR218	グローバル経済と日本(地域経済史)1B	2	1.0	1・2	秋AB	木6		平沢 照雄	経済のグローバル化が進むなかでの地域経済について理解する歴史的前提として地域経済の発展を支えてきた産業構造の歴史について検討する。	教室:人社A313 西暦奇数年度開講。
01DR219	グローバル経済と日本(地域経済史)2A	1	1.0	1・2					グローバル競争下における地域経済を考察する歴史的前提として地域経済発展の構造と歴史について検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR220	グローバル経済と日本(地域経済史)2B	2	1.0	1・2					経済のグローバル化が進むなかでの地域経済について理解する歴史的前提として地域経済の発展を支えてきた産業構造の歴史について検討する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR221	グローバル教育論(比較歴史教育)1A	1	1.0	1・2	春AB	木4		柴田 政子	比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	教室:3K304 西暦奇数年度開講。 01DP681, 01DR310, 01DR476, 01DZ514と同一。
01DR222	グローバル教育論(比較歴史教育)1B	2	1.0	1・2	秋AB	木4		柴田 政子	春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	教室:3K304 西暦奇数年度開講。 01DP683, 01DR311, 01DR477, 01DZ515と同一。
01DR223	グローバル教育論(比較歴史教育)2A	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	01DR312, 01DR478と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR224	グローバル教育論(比較歴史教育)2B	2	1.0	1・2					春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	01DR313, 01DR479と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR225	グローバル社会と日本(法と国際社会)1A	1	1.0	1・2	春AB	火2		岡上 雅美, 木崎峻輔	法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)1B」と併せて受講すること。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。
01DR226	グローバル社会と日本(法と国際社会)1B	2	1.0	1・2	春AB	火3		岡上 雅美, 木崎峻輔	法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)1A」と併せて受講すること。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DR485と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR227	グローバル社会と日本(法と国際社会)2A	1	1.0	1・2	秋AB	月2		岡上 雅美 木崎峻輔	法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)2B」と併せて受講すること。	教室:共同研究棟A604 西暦奇数年度開講。
01DR228	グローバル社会と日本(法と国際社会)2B	2	1.0	1・2	秋AB	月3		岡上 雅美 木崎峻輔	法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)2A」と併せて受講すること。	教室:共同研究棟A604 西暦奇数年度開講。
01DR229	グローバル社会と日本(法と国際社会)3A	1	1.0	1・2					法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)3B」と併せて受講すること。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR230	グローバル社会と日本(法と国際社会)3B	2	1.0	1・2					法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)3A」と併せて受講すること。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR231	グローバル社会と日本(法と国際社会)4A	1	1.0	1・2					法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)4B」と併せて受講すること。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR232	グローバル社会と日本(法と国際社会)4B	2	1.0	1・2					法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)4B」と併せて受講すること。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR233	グローバル社会と日本(法と市民社会)1A	1	1.0	1	春C	応談		根本 信義	売買契約をめぐる具体的な事例問題の検討を通して、民法の規定が当該事案にどう適用されるのかを理解する。	西暦奇数年度開講。
01DR234	グローバル社会と日本(法と市民社会)1B	2	1.0	1	秋C	応談		根本 信義	売買契約をめぐる具体的なトラブルについて、実際の訴訟において、どのように主張・立証すべきかを、訴状・答弁書・準備書面の作成などを通じて検討していく。	西暦奇数年度開講。
01DR235	グローバル社会と日本(法と市民社会)2A	1	1.0	2	春C	応談		根本 信義	消費貸借契約をめぐる具体的な事例問題の検討を通して、民法の規定が当該事案にどう適用されるのかを理解する。	西暦奇数年度開講。
01DR236	グローバル社会と日本(法と市民社会)2B	2	1.0	2	秋C	応談		根本 信義	消費貸借契約をめぐる具体的なトラブルについて、実際の訴訟において、どのように主張・立証すべきかを、訴状・答弁書・準備書面の作成などを通じて検討していく。	西暦奇数年度開講。
01DR237	グローバル社会と日本(法と市民社会)3A	1	1.0	1					売買契約をめぐる具体的な事例問題の検討を通して、民法の規定が当該事案にどう適用されるのかを理解する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR238	グローバル社会と日本(法と市民社会)3B	2	1.0	1					売買契約をめぐる具体的なトラブルについて、実際の訴訟において、どのように主張・立証すべきかを、訴状・答弁書・準備書面の作成などを通じて検討していく。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR239	グローバル社会と日本(法と市民社会)4A	1	1.0	2					消費貸借契約をめぐる具体的な事例問題の検討を通して、民法の規定が当該事案にどう適用されるのかを理解する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR240	グローバル社会と日本(法と市民社会)4B	2	1.0	2					消費貸借契約をめぐる具体的なトラブルについて、実際の訴訟において、どのように主張・立証すべきかを、訴状・答弁書・準備書面の作成などを通じて検討していく。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR241	グローバル社会と日本(法と現代社会)1A	1	1.0	1・2	春C	集中		村上 正子	国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	西暦奇数年度開講。
01DR242	グローバル社会と日本(法と現代社会)1B	2	1.0	1・2	秋C	集中		村上 正子	国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	西暦奇数年度開講。
01DR243	グローバル社会と日本(法と現代社会)2A	1	1.0	1・2					国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR244	グローバル社会と日本(法と現代社会)2B	2	1.0	1・2					国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR245	グローバル社会と日本(法と現代社会)3A	1	1.0	1・2	春C	集中		村上 正子	国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	西暦奇数年度開講。
01DR246	グローバル社会と日本(法と現代社会)3B	2	1.0	1・2	秋C	集中		村上 正子	国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	西暦奇数年度開講。
01DR247	グローバル社会と日本(法と現代社会)4A	1	1.0	1・2					国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	2015年度開講せず。2016年度から西暦偶数年度開講
01DR248	グローバル社会と日本(法と現代社会)4B	2	1.0	1・2					国際的な民事事件の法的処理に関する手続的諸問題を判例を通して考察する。	2015年度開講せず。2016年度から西暦偶数年度開講
01DR249	グローバル社会と日本(企業論)1	1	1.0	1	秋B	集中		斎藤 智文	激動のグローバル時代における企業のあり方について事例を交えつつ探る。	02DME52と同一。11/13-11/15
01DR250	グローバル社会と日本(人的資源経営学)1A	1	1.0	1・2	春AB	木2		ポール マルティン	This class will give an introduction to international management, models of internationalization of enterprise and the role of culture in management.	教室:8A409 西暦奇数年度開講。01DQ777と同一。英語で授業。
01DR251	グローバル社会と日本(人的資源経営学)1B	2	1.0	1・2	秋AB	木2		ポール マルティン	This class focuses on selected challenges in the international management context such as production, human resources, innovation, and finance.	教室:8A409 西暦奇数年度開講。01DQ777と同一。英語で授業。
01DR252	グローバル社会と日本(人的資源経営学)2A	1	1.0	1・2	春AB	水2		ポール マルティン	This class will give an introduction to international management, models of internationalization of enterprise and the role of culture in management.	教室:人社A504 西暦奇数年度開講。英語で授業。
01DR253	グローバル社会と日本(人的資源経営学)2B	2	1.0	1・2	秋AB	水2		ポール マルティン	This class focuses on selected challenges in the international management context such as production, human resources, innovation, and finance.	教室:人社A504 西暦奇数年度開講。英語で授業。

国際日本複合研究学位プログラム

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR301	東アジアの家と社会問題特別授業1	1	1.0	1・2	秋C	集中		佐藤 貢悦	東アジアの家と社会問題の科目群について、授業の目的と展望などを概説する。	
01DR302	現代アジアの家と家庭教育1	1	1.0	1・2	春AB	木4		佐藤 貢悦	「家」、「家族」など基本的な概念について検討し、さらに中国を主たる対象とする家庭教育の課題について考察する。	教室:人社A424 西暦奇数年度開講。01DQ782、01DR541と同一。
01DR303	日本社会と家1A	1	1.5	1・2	春ABC	月4		平山 朝治	霊長類の家族進化の延長上に人間の経済的交換や貨幣をとらえたうえで、日本貨幣の源流が中国の銅銭ではなく西方起源の銀貨であり、7世紀後半にキリスト教とともに東南アジアからもたらされたことを見る。	教室:共同利用棟A202 西暦奇数年度開講。01DR551と同一。
01DR304	日本社会と家1B	2	1.5	1・2	秋ABC	月4		平山 朝治	「日本らしさ」の形成を地層の形成になぞらえつつ解明する。	教室:共同利用棟A202 西暦奇数年度開講。01DR552と同一。
01DR305	韓国の家1	1	1.0	1・2					韓国社会における家族関係の性質について他文化圏との比較考察を交えつつ学ぶ。	2015年度開講せず。2016年度から西暦偶数年度開講
01DR306	日本の青少年と逸脱行動1	1	2.0	1・2	春AB秋AB	金2	1E202	土井 隆義	現代の青少年の逸脱行動の背景にある親密性の変容について考察をおこなう。現代の青少年の逸脱行動を社会的に考えるうえで、人間関係に対する彼らの社会的メンタリティの変化は非常に重要な要因となっている。この授業では、いわば人間関係論的な観点から、逸脱行動論の理論的枠組みの再構築を目指す。	西暦奇数年度開講。01DF308と同一。
01DR307	日本と東アジアのコミュニティ1	1	1.0	1・2	春C	集中		木島 譲次	国際社会における言語や言説の影響と政治との関係性について考察する。	西暦奇数年度開講。01DR114と同一。7/8-7/9
01DR308	日本と東アジアのNPO/NGO 1A	1	1.0	1・2					日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。特に日本と東アジアのNPO/NGOにスポットを当てた事例研究である。	教室:共同研究棟A601-2 01DR103と同一。2015年度開講せず。2016年度から西暦偶数年度開講
01DR309	日本と東アジアのNPO/NGO 1B	2	1.0	1・2					日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。特に日本と東アジアのNPO/NGOにスポットを当てた事例研究である。	01DR104と同一。2015年度開講せず。2016年度から西暦偶数年度開講

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR310	日本と東アジアの比較歴史教育1A	1	1.0	1・2	春AB	木4		柴田 政子	比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	教室:3K304 西暦奇数年度開講。 01DP681, 01DR221, 01DR476, 01DZ514と同一。
01DR311	日本と東アジアの比較歴史教育1B	2	1.0	1・2	秋AB	木4		柴田 政子	春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	教室:3K304 西暦奇数年度開講。 01DP683, 01DR222, 01DR477, 01DZ515と同一。
01DR312	日本と東アジアの比較歴史教育2A	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	01DR223, 01DR478と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR313	日本と東アジアの比較歴史教育2B	2	1.0	1・2					春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	01DR224, 01DR479と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR314	東アジアの政治と歴史1	1	1.0	1・2	秋BC	火5		波多野 澄雄	第二次大戦後の日本の対外政策の展開を、東アジアの国際関係の変動との関連で講義を行う。適宜、重要なトピックスについて教材を配布する。	教室:プロジェクト研究室2階波多野研究室 01DQ741, 01DR105と同一。
01DR315	日本社会と外交1A	1	1.0	1・2	春AB	火5	3K219	潘 亮	This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	教室:3K219 西暦奇数年度開講。 01DF596, 01DQ743, 01DR106, 01DR472と同一。
01DR316	日本社会と外交1B	1	1.0	1・2	春AB	火6	3K219	潘 亮	This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	教室:3K219 西暦奇数年度開講。 01DF597, 01DQ744, 01DR107, 01DR473と同一。
01DR317	日本社会と外交2A	2	1.0	1・2					This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR318	日本社会と外交2B	2	1.0	1・2					This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR319	アジア移民社会論1A	1	1.0	1・2	秋AB	火4		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	教室:文科系修士棟 8A101 西暦奇数年度開講。 01DP767, 01DR480と同一。
01DR320	アジア移民社会論1B	1	1.0	1・2	秋AB	火5		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	教室:文科系修士棟 8A101 西暦奇数年度開講。 01DP768, 01DR481と同一。
01DR321	アジア移民社会論2A	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	01DR482と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR322	アジア移民社会論2B	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	01DR483と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR341	日本とアジアの心身教育特別授業1	1	1.0	1・2	秋AB	集中		仲田 誠	日本とアジアのメディア・情報・技術・科学・社会特別授業1。ワークショップ等を開催し、それをもとに特別授業等を開講し、「日本とアジアのメディア・情報・技術・科学・社会」について学ぶ予定。 2015年度開講予定。	西暦奇数年度開講。 10/31, 11/18

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR342	アジアと日本における心身論1	1	1.0	1・2					アジアと日本および欧米の比較文化論を用い、その特有の心理・身体形成について考察する。	01DR544と同一。2015年度開講せず。2016年度から西暦偶数年度開講
01DR343	アジアの心身論1	1	1.0	1・2	秋A	集中		前林 清和	アジア人の心身のありようについて、西洋近代文化の影響を考察しつつ論じる。	02DML03と同一。10/11-10/12
01DR344	武道と心身論1	1	1.0	1・2	春AB	集中			武道・剣術の歴史を紐解きその文化独自性と精神性を探求する。	
01DR345	身体とコミュニケーション1	1	1.0	1・2		集中		平山 満紀	コミュニケーションにおいて身体のみならず多様な役割について考察・実感することを目指す。	02DML05と同一。7/14, 1/21, 9/17
01DR346	情報社会・ロボット・身体1	1	1.0	1・2	秋AB	水3		仲田 誠	人工知能、還元論的情報社会論の問題点について考える。あわせて日本の科学・技術・社会・経済の「閉塞感」について考え、この「閉塞感」を乗り越え、創発・イノベーションを可能にするにはどうしたらよいか考える。日本文化がもっていた「奥行き」をめぐる議論、存在論的・解釈学的情報社会論が提起した世界の多元性の問題などを参照する。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年開講。 01DQ773, 01DR643と同一。
01DR347	武道文化論	1	1.0	1・2	秋AB	水2	5C413	酒井 利信	武道の文化性に焦点を当て、日本特有の身体論、心法論、修行論を踏まえつつ、特に刀剣の思想を中心に解説する。またこれをもとに、世界に普及しつつある武道の今後の課題を、文化論の立場から考察する。	01B9481, 01EH405と同一。
01DR348	身体と文化1	2	1.0	1・2	春AB	月2	5C618	清水 諭	身体とその文化を振り所にして、文化と社会に関する理論を検討する。その中で、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、階級、ナショナルリティと、アイデンティティ、ライフスタイル、社会変動、そして社会運動について考える。	01EH157と同一。
01DR349	身体・スポーツ・文化	1	1.0	1・2	春C	集中		清水 諭	スポーツイベントとその背景を学び、映像メディアを介した身体文化政治(人種、民族、ジェンダー、ナショナルリティなど)の歴史と現在について考える。	01EH403と同一。7/6, 7/7
01DR350	日本古典文化と身体1	1	1.0	1・2	春AB	火5		巖 錫仁	日本人が伝統的に受け継いできた身体的所作についてその文化的意義を学ぶ。	教室:人社A424 西暦奇数年開講。
01DR351	医療・身体・社会1	1	2.0	1・2	春AB秋AB	木4	人社A401	奥山 敏雄	病とともに生きるとは、身体や自己の解体の危機に直面して、それへの対処をしつつ日々生きることであるが、そうした経験について社会的に考えることを目標とする。	西暦奇数年開講。 01DF304と同一。
01DR352	精神医学と心身問題1	1	1.0	1・2					多くの臨床事例から、現代日本が直面しつつある心身の問題とその対策について講義する。	2015年度開講せず。
01DR381	日本とアジアのメディア・情報・技術・科学・社会特別授業1	1	1.0	1・2	春AB	応談		海後 宗男	日本とアジアのメディア・情報・技術・科学・社会の科目群について、授業の目的と展望などを概説する。	シンポジウムを開き単位化する。6月28日(日) 西暦奇数年開講。
01DR382	日本のエンターテインメントと社会経済1	1	1.5	1・2					戦後日本のスターを何人かとりあげて、彼らの人気とその社会経済的背景について考える。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR383	ソフト・パワーのメディア文化政策1	1	1.0	1・2	春AB	木5		白戸 健一郎	国家のブランド力たる真のソフト・パワーとは?本講義では昨今のクールジャパン論をはじめとする文化発信政策について検証します。	教室:共同研究棟A601-2 西暦奇数年開講。 01DR652と同一。
01DR384	比較広告・宣伝論1	1	1.0	1・2					複数の事例から、広告の効果と一般的宣伝論について学ぶ。	01DR655と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR385	日本社会と映像・メディア・広告1	1	1.0	1・2	春AB	水3		仲田 誠	戦前戦後の小津安二郎(晩春)の映画や戦中の日本映画(田坂具隆の『5人の斥候兵』など)、稲垣浩、黒澤明などの映画を見ながら、日本人の価値観について考える。日本的悲しみの思想や運命感・無常観などと日本の社会のありかたについて考える。映像の中にこのような価値観、世界観がどのように反映されているか考える。こうした価値観や身体感覚・身体図式が日本の社会・技術・科学のありかたにどう関わってきたかについても考える。2015年度開講予定。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年開講。 01DQ706, 01DR641と同一。
01DR386	日本と中国のメディア比較調査	1	2.0	1	春AB	火5,6		石井 健一	社会心理学やコミュニケーション研究の視点から消費者行動に関する研究を紹介する。授業に関連した実習も行う。	01CB126, 01CD221, 01CN323, 01DR645と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR387	比較情報社会1	1	1.0	1・2	春B	集中		田畑 暁生	各地域・文化圏における情報技術と社会の関わり の差異を考察する。	5月30日(土)、6月27日 (土) 02DMM06と同一。
01DR388	アジアのCMC 1	1	1.0	1・2	春AB	火4		海後 宗男	この授業では、社会的ネットワーク論の基礎を勉強 します。人と人とのつながりの関係性、紐帯、 小集団組織度、コミュニティの中で意見の集約に ついて学習します。	教室:共同研究棟A601- 1 西暦奇数年度開講。 01DQ795, 01DR648と同一。
01DR389	アジアのICTs 1	1	1.0	1・2	春C	集中		森 邦彦	アジアで展開されるICT産業の展望について考察 する。	02DMM09と同一。 8/3-8/4
01DR390	インターネットと市民 社会1	1	1.0	1・2	春AB	火5		海後 宗男	社会関係資本の形成過程とインターネットの利用 の関連性、利用者、コミュニティ、社会への効果 を学習する。情報通信、コミュニティ、地域振 興、地方自治という視点から考える。	教室:共同研究棟A601- 2 西暦奇数年度開講。 01DQ796, 01DR649と同一。
01DR391	日本社会・政治とイン ターネット1	1	1.0	1・2					地域情報化政策の観点から、社会の情報化につ いて事例を交えて検証する。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数 年度開講
01DR392	情報倫理・ロボット倫 理1	1	1.0	1・2					「情報社会・ロボット・身体1」に引き続き、人工 知能、還元論的情報社会論の問題点について考 える。あわせて日本の科学・技術・社会・経済の 「閉塞感」について考え、この「閉塞感」を乗り越 え、創発・イノベーションを可能にするにはど うしたらよいか考える。日本文化がもっていた 「奥行き」をめぐる議論、存在論的・解釈学的情 報社会論が提起した世界の多元性の問題などを参 照する。ロボットについてもとりあげ、「技術と 文化・人々の価値観・身体図式との関連」という 視点から問題にする予定。情報倫理、ロボット倫 理の問題も取り上げる。技術と人間の関わりの中 心について、技術・科学、思想、文化、人間観、 倫理等という総合的視点から考える。	01DR644と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数 年度開講
01DR393	日・アジア・北米イン ターネット政治論1	1	1.0	1・2					(Not Offered in the 2015-16 academic year; offered in the 2016-17 academic year.)	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数 年度開講
01DR421	アカデミック翻訳特別 授業1	1	1.0	1・2	秋AB	応談		平石 典子	翻訳や翻案に関わる学術集會に参加することに よって、視野を広げ、アカデミックな場において 翻訳や翻案がどのように議論されているのかを学 ぶ。	西暦奇数年度開講。
01DR422	翻訳からみた日本と東 アジアの文化1	1	1.0	1・2	秋AB	火5		巖 錫仁	訳書の文献講読によって見えてくるアジアの文 化的差異についての分析を試みる。	教室:人社A424 西暦奇数年度開講。
01DR423	日本の精神文化と翻訳1	1	1.0	1・2	秋AB	火4		津城 寛文	学術用語、文化用語としての日本語は、地域言語 として、古くは中国語、新しくは欧米諸語、現在 はほぼ英語という、世界言語に從属する形で、そ れらのキーワードを直輸入、翻訳、修正しながら、 知的営みを積み重ねてきた。そのうち、明治 以降の欧米諸語の輸入、翻訳に焦点を絞り、いく つかの問題点を再検討する。とくに、翻訳語と思 われているキーワードのうち、日本オリジナルの ものがあることに注目して、その成立の経緯を考 察する。	教室:共同研究棟A601- 1 西暦奇数年度開講。
01DR424	日本とアジアの相互理 解のための翻訳1	1	1.0	1・2	秋C	集中		佐藤 貢悦	近代の日本語はどのようにして成立したのかにつ いて、三上章、柳田章の理論を手がかりにしなが ら考察し、あわせて中国語と英語の対訳資料を用 いながら翻訳のためのスキルについて検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR425	異文化理解のための日 本語翻訳1	1	1.0	1・2					よりよい翻訳に求められる異文化への眼差しにつ いての講義である。	2015年度開講せず。
01DR426	日本語文法と日本社会1	1	1.0	1・2					文法によって規定される社会の様相とは。言語学 的解釈で日本社会を考察する。	2015年度開講せず。
01DR427	日本文学と翻訳	1	1.0	1・2	春AB	木4	8A404- 2	平石 典子	翻訳理論を学びながら、日本文学の翻訳について 考察する。	教室:文修3A409 西暦奇数年度開講。 01DQ642, 01DR581と同一。
01DR428	言語政策と日本語論1	1	1.0	1・2	春B	集中		津田 幸男	言語政策に関する是非を検討し、よりよき国際コ ミュニケーションのあり方について学ぶ。	5月23日(土)、6月28日 (日)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR429	異文化相互理解のための通訳1	1	1.0	1・2					異なる国の言葉を短期間に正確にとらえ、伝える通訳という観点から、異なる文化を如何に理解すべきについて講義、実践する。During this course, students will be introduced to the theoretical and practical study of interpreting. First, we will look at theories about interpreting as well as methods; then we will focus on practical exercises in interpreting. We will be interpreting both ways in English and Japanese.	英語で授業。 2015年度開講せず。
01DR430	異文化対話のための通訳1	1	1.0	1・2	秋C	水1,2		川崎 レスリー タック	(Not Offered in the 2015-16 academic year; offered in the 2016-17 academic year.) 異なる国の言葉で書かれた文章を理解するには、語学力のほか、その文化も知らなければならない。文章という対話の形から、異なる文化を如何に理解すべきについて講義、実践する。	教室:共同研究棟A604 西暦奇数年度開講。 英語で授業。
01DR461	グローバル共生社会特別授業1	1	1.0	1	秋C	金4,5		辻中 豊	グローバル共生社会の科目群について、授業の目的と展望などを概説する。	西暦奇数年度開講。
01DR462	市民社会とガバナンス1A	1	1.0	1・2	春AB	金4		辻中 豊	日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。日本政治・社会の基本文献を検討するとともに、実証的な研究方法について研究する。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DP656, 01DR101と同一。
01DR463	市民社会とガバナンス1B	2	1.0	1・2	秋AB	金4		辻中 豊	日本研究を政治学・社会科学の立場から行うための方法について演習形式で学習する。日本政治・社会の基本文献を検討するとともに、実証的な研究方法について研究する。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DF249, 01DQ716, 01DR102と同一。
01DR464	比較労働・社会政策1A	1	1.0	1・2	春AB	水2		田中 洋子	日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の働き方の歴史および現状についての分析を行い、国際比較の観点から議論するとともに、対応する労働政策・社会政策のあり方を考察する。	教室:図書館セミナー室 西暦奇数年度開講。 01DP666と同一。
01DR465	比較労働・社会政策1B	2	1.0	1・2	春C	集中		田中 洋子	各国の労働システムをはじめとする社会経済体制について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	西暦奇数年度開講。 01DP667と同一。 7/9, 7/15, 7/22
01DR466	比較労働・社会政策2A	1	1.0	1・2					日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の働き方の歴史および現状についての分析を行い、国際比較の観点から議論するとともに、対応する労働政策・社会政策のあり方を考察する。	教室:図書館セミナー室 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR467	比較労働・社会政策2B	2	1.0	1・2					各国の労働システムをはじめとする社会経済体制について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR468	国際政治と共生1A	1	1.0	1・2	春AB	火3	総合A107	大友 貴史	This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	教室:総合研究棟A107 西暦奇数年度開講。 01DF590, 01DQ785と同一。
01DR469	国際政治と共生1B	3	1.0	1・2	秋AB	月6	総合A107	大友 貴史	This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	教室:総合研究棟A107 西暦奇数年度開講。 01DF591, 01DQ786, 01DZ531と同一。
01DR470	国際政治と共生2A	3	1.0	1・2					This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR471	国際政治と共生2B	2	1.0	1・2					This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR472	日本の対外関係とグローバル共生1A	1	1.0	1・2	春AB	火5	3K219	潘 亮	This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	教室:3K219 西暦奇数年度開講。 01DF596, 01DQ743, 01DR106, 01DR315と同一。
01DR473	日本の対外関係とグローバル共生1B	1	1.0	1・2	春AB	火6	3K219	潘 亮	This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	教室:3K219 西暦奇数年度開講。 01DF597, 01DQ744, 01DR107, 01DR316と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR474	日本の対外関係とグローバル共生2A	2	1.0	2					This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR475	日本の対外関係とグローバル共生2B	2	1.0	2					This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged.	2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR476	教育とグローバル共生社会1A	1	1.0	1・2	春AB	木4		柴田 政子	比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	教室:3K304 西暦奇数年度開講。 01DP681, 01DR221, 01DR310, 01DZ514と同一。
01DR477	教育とグローバル共生社会1B	2	1.0	1・2	秋AB	木4		柴田 政子	春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	教室:3K304 西暦奇数年度開講。 01DP683, 01DR222, 01DR311, 01DZ515と同一。
01DR478	教育とグローバル共生社会2A	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	01DR223, 01DR312と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR479	教育とグローバル共生社会2B	2	1.0	1・2					春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	01DR224, 01DR313と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR480	多文化共生論1A	1	1.0	1・2	秋AB	火4		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	教室:文科系修士棟8A101 西暦奇数年度開講。 01DP767, 01DR319と同一。
01DR481	多文化共生論1B	1	1.0	1・2	秋AB	火5		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	教室:文科系修士棟8A101 西暦奇数年度開講。 01DP768, 01DR320と同一。
01DR482	多文化共生論2A	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	01DR321と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR483	多文化共生論2B	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	01DR322と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR484	東アジアの国際関係と共生社会1	1	1.0	1・2	秋C	集中		木島 譲次	国際社会における言語や言説の影響と政治との関係性について考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR115と同一。
01DR485	グローバル共生社会と法律1	2	1.0	1・2	春AB	火3		岡上 雅美, 木崎 峻輔	法的な観点から、グローバル社会における諸現象を検討する。日本の法体系をまず大まかに概略し、その後、各参加者の関心に応じてテーマを設定し、報告の後に討論を行う。「グローバル社会と日本(法と国際社会)1A」と併せて受講すること。	教室:共同研究棟A601-1 西暦奇数年度開講。 01DR226と同一。
01DR486	政治とインターネット1A	4	1.0	1・2	春AB	金3	8A107	川崎 レスリー タック	The main purpose of this course is to provide students with an overview of issues and topics related to the information society in the world in general and Japan and south-east Asia in particular.	西暦奇数年度開講。 01DP465, 01EH041と同一。 英語で授業。
01DR487	政治とインターネット1B	4	1.0	1・2	春AB	金4	8A107	川崎 レスリー タック	The main purpose of this course is to provide students with an overview of issues and topics related to the information society in the world in general and Japan and south-east Asia in particular.	西暦奇数年度開講。 01DP466, 01EH072と同一。 英語で授業。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR488	政治とインターネット 2A	1	1.0	1・2					The main goal of this course is to provide students with the opportunity to conduct in-depth analyses of key topics in the information society debate from the perspective of international politics. What is the relationship between international politics and the information society? What role do various international organizations play in the global information society? Our class will delve into selected topics including, but not limited to, communications and technological dynamics in international politics, digital divide theories, private companies and data/privacy security, and social network utilization.	01DR118と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講
01DR489	政治とインターネット 2B	2	1.0	1・2					(Not Offered in the 2015-16 academic year; offered in the 2016-17 academic year.)	01DR119と同一。 2015年度開講せず。 2016年度から西暦偶数年度開講

日本語教育学学位プログラム

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR711	日本語教育原論	1	1.0	1	春AB	水5		許 明子, 国際日本研究専攻日本語教育領域全教員	日本語教育に関する背景知識として、日本語の文字語彙、文法、聴解、会話、読解、作文、ITの利用、異文化コミュニケーションなどに関して概説し、教授法やコースデザイン、教案の作り方などを指導する。	人文社会科学研究科の学生で、日本語教育学学位プログラムの学生は必修。他専攻、他プログラムの学生で「日本語教師養成プログラム」の履修を希望する場合も、この科目をとる必要がある。留学生の場合、日本語文化科目上級が履修可能なレベルであることが履修条件。教室:留セA 参考文献として、縫部義憲編著『多文化共生時代の日本語教育』 歴々社を読んでおくこと。そのほかは、適宜クラスで指示する。
01DR712	日本語教育研究概論	1	1.0	1	秋AB	水6		許 明子, 国際日本研究専攻日本語教育領域全教員	日本語教育原論での基礎知識を踏まえ、日本語教育に関する研究論文を書くためのトレーニングを行う。	人文社会科学研究科の学生で、日本語教育学学位プログラムの学生は必修。教室:文科系修士棟8A101 参考文献および課題は、各クラス内で指示する。
01DR713	日本語文字・語彙教育法	2	1.0	1	秋AB	金3		加納 千恵子	日本語の文字・語彙の教育方法について、先行文献や教材などを概観し、さまざまな教育方法やアプローチについて検討する。また、学習者の学習ニーズによる違い、文化圏による違い、認知スタイルによる違いなども検討し、教案の作成、教材研究などを演習も交えて行う。	参考文献:加納千恵子ほか著/関正昭ほか編『日本語教育書をつくる 漢字教材を作る』スリーエーネットワーク 他は、授業中に適宜指示する。教室:留セB 留学生の場合は、日本語文化科目上級を履修可能なレベルであることを履修条件とする。
01DR714	日本語聴解教育法	2	1.0	1	秋C	月5,6 集中		酒井 たか子	外国人学習者に対する日本語の聴解に関して、基本的な考え方を学ぶ。実際に教材作成やクイズを作成し分析することを通して聴解の効率的な指導法について考える。	教室:留セA
01DR715	日本語教育文法論	2	1.0	1	春AB	月3		許 明子	日本語教育の初級、中級レベルにおいて、コミュニケーション能力を向上させるための文法教育の在り方について学び、議論を行う。	教室:共同研究棟A601-2 外国人留學生の場合、日本語文化科目上級が履修可能なレベルであることが履修条件。
01DR716	日本語会話教育法	2	1.0	1	秋AB	水2		関崎 博紀	日本語の会話を教える際に留意すべき点について考える。	教室:文修8A101

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR717	日本語教育評価法	2	1.0	1	春AB	水6		許 明子, 国際日本研究専攻日本語教育領域全教員	日本語の各技能において、どのようなテストや評価法が考えられるか、日本語の文字語彙、文法、聴解、会話、読解、作文、ITの利用、異文化コミュニケーションなどに関して概説し、実際のテストを作ったり、インタビューテストやポートフォリオ評価など実践したりする。	人文社会科学研究科の学生で、「日本語教師養成プログラム」の履修を希望する場合は、この科目をとる必要がある。留学生の場合、日本語文化科目上級が履修可能なレベルであることが履修条件。教室:留セA 参考文献は、適宜クラスで指示する。
01DR718	日本語教育のための会話分析	2	1.0	1	春AB	月4		ブッシュネル ケード コンラン	本授業の主な狙いとは、(特に行為連鎖や修復に関する)会話分析の基礎知識を日本語教育(または第2言語習得の研究)へ応用する力を身につけることである。前半では会話分析の基本的な概念とその応用を受講生による文献発表・ディスカッション等をとおして復習・確認する。そして後半では、受講生が自ら集めるデータ(生の会話を録音・録画した資料)を実際に共同的に分析することによって、会話分析の技術やそれを応用する力を身につけていく。	教室:共同研究棟A601-1
01DR719	日本語教育のための機能文法	2	1.0	1	秋AB	月2		小野 正樹	日本語を中心とした語用論の観点から、文法機能や「丁寧さ」について考察する。	教室:共同研究棟A601-2
01DR720	日本語教育のための言語学	2	1.0	1	春AB	水2		今井 新悟	日本語教育学の文献を理解するために必要な言語学に関する基礎的な用語・概念を理解する。	教室:共同研究棟A601-2
01DR721	日本語教育のための文章表現論	2	1.0	1	秋C	水1,2 集中		木戸 光子	文章・談話研究の中で日本語教育に関連の深いテーマを取り上げて、日本語の文章・談話の構造や表現について知見を深め、分析・記述の方法を学ぶ。	教室:文修8A102 受講希望者は授業初日に必ず出席すること。
01DR722	日本語教育のためのデータ解析演習	2	1.0	1	秋C	火2,3 集中		李 在鎬	言語研究をデータサイエンスと捉え、SPSSを用いた実際のデータ処理をします。	教室:文修8A409
01DR723	日本語教育実践研究1	1	3.0	1	秋学期	集中		許 明子, 国際日本研究専攻日本語教育領域全教員	日本語教育の現場に1学期間(15週)参加し、授業の運営、教授・学習行動、教材開発などの実習を行う。指導は各クラスの担当教員が行い、授業補助をしながら教壇に立つ場合もある。秋学期集中の科目なので、夏休み前に留学生センターにおいて授業見学などを行い、事前にどの教員のクラスで実習をするか決めておく必要がある。	科目等履修生、学群生の参加は不可。
01DR724	日本語教育実践研究2	1	3.0	2	春学期	集中		許 明子, 国際日本研究専攻日本語教育領域全教員	初級レベルの学習者を対象に実際にクラス運営を行う。学生募集やクラスわけ、授業、評価を行う。	履修者はグループ活動を通して初級クラスを担当し、運営する。
01DR725	日本語教育実践研究3	1	3.0	1・2	通年	集中		許 明子, 国際日本研究専攻日本語教育領域全教員	国内外の日本語教育機関で日本語を教えた経験がある人と対象に、日本語教育実践2の授業内容に該当する場合は単位として認める。	
01DR726	日本語音声教育法	1	1.0	1	秋AB	金5		松崎 寛	第二言語習得研究の観点から、日本語教育における音声教育の理論と方法について考察する。また、学習者の発音の分析や、教材・教具の分析を行い、音声指導法について検討する。	教室:文修8A409
01DR727	日本語教育実践演習	2	1.5	1	秋ABC	木4		一二三 朋子	2年次に行う日本語教育実習を視野に入れ、教材分析・教案作成・模擬実習などの実践的な活動を行う。	教室:文修8A107
01DR728	日本語構造研究	1	1.5	1	春ABC	金2	1B204	杉本 武	記述的研究の立場から現代日本語の形容詞のとり格の分析を行いながら、記述的研究のあるべき姿を考える。	2015年度より4年おき開講。 02DT261と同一。
01DR729	日本語構造演習	2	1.5	1	春ABC	木5	1B302	沼田 善子	副詞、人称、呼称に関わる問題を中心に、言語主観性に関わる現代日本語文法の諸現象について、主要論文を購読した後、受講者の発表とそれに対する討論を通し、考察する。ここでの考察は、他言語との比較対照もできる限り交えながら、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。	2015年度より4年おき開講。 02DT271と同一。
01DR730	日本語文化科目上級読解	2	1.5	1	秋ABC	金4		小野 正樹	状況的学習論を背景に日本語や日本社会、日本文化の相互関係などについて学習し、自らデータを収集・分析した研究プロジェクトにまとめる。	教室:共同研究棟A601-2 01DP301と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR731	日本語文化科目上級作文	2	1.5	1	春ABC	金3		木戸 光子	研究のために書くこと、および書くことによって思考を深めることを目標とする。レポート・論文作成法の教科書の読解と作文練習、期末レポート作成を通して、レポートや論文の書き方を学習する。	教室:留せE 01DP302と同一。 授業希望者は授業初日に必ず出席すること。
01DR732	日本語文化科目上級会話・聴解	2	1.5	1	秋ABC	月4		ブッシュネル ケード コンラン	実際の会話資料を通して、聞き取り能力を高めるとともに、日本語による様々なやり取りのパターンなどを確認する。また、それぞれのパターンの応用によって、より高い相互行為能力を身に付けていく。受講生は会話資料を集めて文字化し、分析する。そして、分析の結果を発表したり、それを踏まえた応用練習や実演をする。	教室:共同研究棟A601-1 01DP303と同一。
01DR733	日本語文化科目上級文法	2	1.5	1	春ABC	火4		許 明子	授業目標:日本語の文法について意味的、構文的な特徴を確認し、運用力を身につける。	・上級レベルの学生が対象です。(中級レベルの学生は受講できません)・日本人学生は登録できません。教室:留せC 01DP304と同一。
01DR734	会話分析A	1	1.0	1・2	春AB	火5		高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	教室:共同研究棟A601-1 01DE483と同一。
01DR735	会話分析B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	教室:共同研究棟A601-1 01DE484と同一。
01DR736	コミュニケーションの人類学A	1	1.0	1・2	春AB	木3		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講義をもとに討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	教室:共同研究棟A601-2 01DE481, 01DQ081と同一。
01DR737	コミュニケーションの人類学B	2	1.0	1・2	秋AB	木3		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講義をもとに討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	教室:共同研究棟A601-2 01DE482, 01DQ083と同一。
01DR738	ディスコースと文法	1	1.0	1	春AB	水3		遠藤 智子	本講義は談話機能主義言語学および相互行為言語学の主要な概念を学び、自ら収集した会話データに基づいた文法研究が行えるようになることを目指すものである。	シラバスは最新版をご参照ください。教室:共同研究棟A601-2
01DR739	サービス場面におけるコミュニケーション	1	1.0	1	秋AB	水1		黒嶋 智美	本講義では、広義にサービス場面をとらえ、様々な社会制度的場面のコミュニケーションについて学び、実際のデータを見て分析する訓練を行なう。各回では、異なるサービス場面を取り上げ、日英の主だった文献を講義形式で検討した後、トランスクリプトを元にデータを観察し、様々な場面における人々のふるまいを実際に分析する。	シラバスは最新版をご参照ください。教室:共同研究棟A604
01DR740	テクノロジーとコミュニケーション	1	1.0	1	秋AB	水3		砂川 千穂	インターネットや携帯電話、コンピュータなどのIT機器の普及により、私たちの日常生活は大きく変わった。文化的に培われた考え方や習慣はIT化によってどのように影響をうけるのだろうか?慣れ親しんだ習慣は(再)構築されるのだろうか?あるいはまったく新しい形へと変化し、新しい意味合いがうまれるのだろうか?これからのコミュニケーション・異文化コミュニケーションはどうあるべきだろうか?このクラスでは、こうした問いについて多角的に考えていく。主に言語人類学、社会言語学、社会学、インタラクション研究の分野からの研究を参考に、テクノロジー使用と言語・文化的実践の相関関係について議論する。	教室:共同研究棟A601-2